


# ICT活用レポート！

第（ 5 ）学年 （ 社会 ）科 単元名「日本の工業生産の今と未来」での実践		
項目	内容	
ICT活用の場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のノートを「発表ノート」で作成する。</li> <li>・課題解決に向かうための資料を自分で探すことができるように、「発表ノート」や「発表ノート・資料置き場」を活用する。</li> <li>・自分の考えの変容が分かるように「ポジショニング」を使う。</li> </ul>	
使用したICT機器	タブレット	
具体的な方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「発表ノート」を教師の意図したタイミングで配付し、学習を進める。</li> <li>・導入、終末において「ポジショニング」を活用する。</li> </ul>	
成果と課題	○成果	△課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のタイミングでノートを配布することができるので、その時の課題（調べる視点）を明確にすることができた。</li> <li>・教科書や資料集のPDFデータも発表ノートに貼り付けて配付したことで、まとめる時に必要な情報を切り取るなど自分でノート作りをできた。</li> <li>・海外生産を進めることに、賛成か反対かの立場をポジショニングを使って明確にしたことで、資料をもとにした理由を自分の考えと関連させながら学習を進めることができた。</li> <li>・ポジショニングは、日をまたいでも継続して活用することができるので、子どもたちがどのように思考を変化させているのかを読み取ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様変更が行われ、発表ノートを配付するごとに、新しい発表ノートとして立ち上がるようになった。 →対応として、資料置き場に発表ノートを置いておき、児童がそこから取り出す方法がある。</li> </ul> 
感想や改善策	<p>ポジショニングを活用したことによって、自分の立場や思考を可視化することができるので、どうしてそう考えたのかというところからお互いに聞きあって確かめあう姿が見られた。理由も書き込むことができるので、この時にはAと思っていたが、今ではBと思うなど児童の考えを変容も見ることができた。</p> <p>ノートのまとめ方については、資料を活用しながら分かりやすく、見やすくまとめることができる児童がいるので、そのノートを紹介しながらデジタルのノートでのまとめ方はどんなものがよいかなど児童と一緒に考えていく必要があると思った。</p>	